

みずき

mizuki



contents

CLOSE UP.....1	Club Activities.....8
巻頭言.....1	大垣女子短期大学での思い出...10
新時代に向けて躍進する 総合女子短期大学の新しい船出...2	Information.....11
これからの本学の教育のあり方...3	研究室から.....11
学科だより.....4	新聞・雑誌掲載記事拝見♪...12
学友会だより.....6	社会的活動の記録.....15
	みずきトピックス.....16

CLOSE UP

「文化活動の日」を開催

開催日：平成26年10月23日（木）
場 所：大垣女子短期大学 みずきホール

5学科から成る総合女子短期大学である本学は、若い女性たちがそれぞれの学科で専門分野ごとに日進月歩の知識や技術の修得に励んでいます。

一方、大学の使命はそれまでの「教育」「研究」の二本柱に加え、「地域貢献」の項目が加わりました。今や大学で得た知識・技術が、いかに社会に貢献できるかが大きく問われる時代になっています。この観点から本学では、総合的な一般教養が身につくようにと、5学科があるからこそ開講可能な、多くの教養科目が履修できるようになっています。

これら教養科目を補完する一環として「文化活動の日」を初めて設定し、当日は、社会で素晴らしい活躍をされている方々に、これからの人生に参考となり得る講演等をしていただきました。

まず、大垣精工株式会社の代表取締役 上田勝弘氏に講演をお願いしました。上田氏は長年にわたり金型工業に従事され、一代で海外でも認められる超優良企業に育て上げられた方です。また、日本金型工業会の会長を歴任され、業界では言わずと知れた方です。

上田氏は、若い時代の生き方がその人間の一生を決めるほど重要である、ということをご自身の経験も交えて話され、多くの教訓を与えていただきました。

次に、岐阜県関市で教会の牧師をされておられるメルトン・フィリップ氏をお招きし、外国人の目線から日本人の素晴らしい点、改善してほしい点を実例を交え、流暢な日本語で



大垣精工株式会社
代表取締役 上田勝弘氏

身振り、ジョークを交えながら熱演していただきました。日常生活ではなかなか気付かなかった点を指摘いただき、大変感銘を受けました。

この講演の間に、社会人サークルによる大正琴の演奏が行われました。その音色やハーモニーの素晴らしさに感動しましたが、演奏者の大半が大垣市民病院の看護師などで構成されたサークルであったことも大変な驚きでした。

この「文化活動の日」は、大変有意義な時間となったことでしょう。また、こうした行事を通して教養の幅が広がっていくくれることでしょう。



メルトン・フィリップ氏



社会人サークルによる大正琴の演奏

巻頭言

心の安全基地

あなたのことを見守ってくれる人は誰ですか？ 困ったことが起きたとき、あなたは誰に助けを求めますか？

子どもが困ったときや不安なときなどに安心させてくれる人を、心理学の「アタッチメント」という理論では「安全基地 (secure base)」といいます。通常その安全基地は、親から始まり、成長に伴って友達や恋人などへと変化していきます。大人にとって安全基地とは、新しいことにチャレンジするときや失敗して落ち込んだときなどに、気持ちを受けとめ、安心させてくれるところ（人）、と捉えることができます。安心してできる人のそばで気持ちを建て直し、後押ししてもらうことで、私たちは前に進んでいくことができます。

放映中のNHKの連続ドラマ『マッサン』では、主人公のマッサンとエリーに、うれしいときや苦難のときが次々に訪れます。日本で初めてのウイスキーづくりを目指すマッサンですが、なかなかうまくいきま

総合教育センター 准教授 小林 佐知子

せん。壁に当たってマッサンが悩むたび、エリーは「ダイジョウブ」とやさしく声をかけます。スコットランドから日本に来たエリーにも、色々な難題が待ち受けます。そんなとき、近所の人達が相談に乗り、励ましてくれます。ドラマでなくとも人生は苦難の連続ともいえますが、こんなふうにくつもと安全基地を持っていることは大きな財産といえるのではないのでしょうか。

この20年、阪神大震災、新潟県中越地震、東日本大震災をはじめ、予想を超えるような天災が次々に起きました。天災が起きるたびに大勢の命が亡くなり、残された大勢の方々の「安全基地」が奪われました。何年何十年も時間が過ぎたとしてもなお、心の痛みが消えないことをメディアは伝えています。日々の生活の中で、残された方々にとって少しでも安心感を得られる人が近くにいることを祈ってやみません。人の「絆」が見直されています。「安全基地」がますます大切な時代になったと感じています。

新時代に向けて躍進する 総合女子短期大学の 新しい船出



学校法人 大垣女子短期大学 理事長 中野 哲
大 垣 女 子 短 期 大 学 学 長

近年、世界各地で未曾有の災害や宗教・人種や経済格差などの人工的な災害が多発するようになっています。一方で、日本では少子高齢社会は現実のものとなり、特にこのまま若い女性が増え、さらに未婚率が増加すると多くの市町村が消滅するというショッキングな報告が半年前になされました。これは国家存亡の危機であるとして、ここからの脱出のキーワードとして安倍内閣は「地方創生」と「女子力」を挙げています。

さて、本学は修業年限が3年の幼児教育学科と歯科衛生科の2学科と、修業年限が2年の音楽総合科とデザイン美術科の2学科の4学科の総合女子短期大学でしたが、平成25年度から新しく修業年限3年の看護学科が加わり、平成27年度から看護学科の全学年が出揃うこととなり、名実ともに5学科から成る総合女子短期大学となります。

さて、本学は「若い女性は国の宝」であるとの認識で、46年前の開学以来27万6000人の卒業生を輩出し、国が重視するようになっている「地域貢献」を果たしてきました。

本学は、教育の基本である建学の精神「中庸を旨とし、勤労を尊び、職業人としての総合能力を有する人間性豊かな人材の養成」に明記されているように、知性と感性を兼ね備え、自律心を持った女性の育成を行ってきました。学生はそれぞれ、自分が選択した分野で専門的・技術を学ぶだけでなく、全学科共通の一般教養が修得できるよう、「女性学」、「子育て入門」、「芸術入門」、「音楽療法入門」、「歯科衛生概論」という、5学科があるからこそできるカリキュラムを用意し、学生が一般教養を身に付けられるようにと、全教員により「教養ミニトーク」を行っています。一方、若い学生は自分ですら気付いていないような秘めた運伝子を有しており、これらが開花するのは環境であるとの思いから、木々が茂り「川」が流れるクリーンなキャンパス（CHARM-ing Campus）が用意されており、5学科の学生は文化系・運動系の各クラブで自由に交流しています。生物が存続できる要因の一つに「多様性」が挙げられていますが、ユネスコのESD（Education for Sustainable Development）の精神から考えてみても、これからは専門性のみでなく、多様な環境変化に適応できる柔軟性のある教育が必要であると思います。今や、知識の集積のみの教育から、大脳前頭葉を刺激、活用する教育に転換する必要があります。若い学生には常に自分を高める自己鍛錬こそが極めて重要で、「女性力」「多様性」「地域貢献」のすべてが整っている本学は、まさに時代が求めている教育に最も適している環境でしょう。

（平成27年初春）



これからの本学の 教育のあり方



大垣女子短期大学 副学長 石川 隆義

本学は教育学系、医療系、芸術系の5学科からなる総合女子短期大学であり、このような学科構成は全国約360校ある短期大学の中でも数が少なく、本学の大きな特長であると言えます。この本学の特長的な教育機能を伸長させてより発展していくためには、地方創生・地域活性化のリーダー役の人材養成が大事と考えています。

即ち、職業人としての汎用的な能力として必要となる豊かな教養的素養を持つ、幼稚園教諭、保育士、看護師、歯科衛生士、介護人材等の養成機能のさらなる充実です。特に幼児教育学科は全国的にも数少ない3年制教育を行っており、地域社会や他学科との連携強化で一層の飛躍が期待されます。そして、音楽・デザイン美術等の芸術の専門知識・技能と幅広い教養を併せもつ、地域コミュニティの基盤となる人材の養成機能の充実を考えています。また5学科共に、短期大学の特色を生かした教養教育と、専門教育の提供による知識基盤社会に対応した人材養成が今、社会から求められています。さらに、国家資格取得やキャリアアップを目指す社会人や再就職を目指す有資格者に対する学び直しプログラム、地域住民の様々なニーズに対応した生涯学習プログラムなどの具体的な実施が必要です。これらの実績を内外ともに「見える化」していくことも大切だと考えています。

日本の人口動態として2020年から18歳人口が減少することが言われ、この大垣・西濃地域においても高齢化・人口減少は喫緊の課題としてあり、本学は特に「生涯学習型」「地域連携型」の高等教育機関に早急にシフトしていくことが重要な鍵であると考えています。即ち、この本学の課題を力強く後押ししていると考えられる事業が国策として打ち出されています。即ち、平成27年度において文部科学省が地（知）の拠点大学による地方創生事業（COCプラス）を立ち上げ、本学のように地域を志向する大学が自治体や地域の中小企業等と連携し、地域が抱える課題を解決していく事を国レベルで支援するものです。本学としては、看護や歯科の領域からの地域医療、音楽療法士の資格取得による介護サービスの向上に必要な人材の輩出、幼児教育学科をはじめ全学あげての子育て支援や地域住民の学び直しの機会提供による地域コミュニティの振興をテーマとした「地域コミュニティ再生型大学」を目指していく事が、さらなる発展と飛躍を期すために大切であると思っています。



Information

●平成27年度 主な全学行事

オリエンテーション	4月1日(水)~3日(金)
健康診断	4月1日(水)・2日(木)
入学式	4月4日(土)
FSC(ファーストステップキャンパス)	4月6日(月)
前期授業	4月7日(火)~7月23日(木)
前期定期試験	7月24日(金)~7月30日(木)
後期授業	9月24日(木)~1月21日(木)
後期定期試験	1月22日(金)~1月28日(木)
十石まつり	10月11日(日)
みずき祭前日祭・みずき祭	10月23日(金)・24日(土)
こども祭	1月17日(日)
デザイン美術科卒業記念展	2月9日(火)~14日(日)
平成27年度卒業証書・学位記授与式	3月13日(日)

デザイン美術科

短期大学で学ぶということ

村上海

平成25年3月卒業
株式会社スリー企画 勤務

短大ではアニメーションを専攻して学んでいました。短大に来て初めてアニメーションを制作はじめてみましたが、好奇心が強い性格だったのもあり、授業内だけでなく、作品を学生上級会で発表しました。作品制作は根気のいる作業が繊細のものでしたが大変でしたが、遅くまで先生や同じコースの友人と奮闘に取り組みだことは良い思い出です。

現在はデザインの仕事をしています。短大で学んだ色彩の勉強、平面だけでなく立体についての感覚も文字の置き方や紙面の構成を考えるのに役立っていると感じています。学生の頃は、自分の課題と向き合い続けられれば許されていましたが、社会に出て仕事をすると、自分の仕事をこなすことよりも自分以外の人に対して「気を遣う」ということが当然になりました。社会人としては当たり前のことではありますが、自分の世界にやり込みやうといというデザイナー美術科の特性上疎かになりがちで、でも意識するだけで同じ仕事や行動でもずいぶん感じ方も学ぶことも多くなると思います。

在学生の皆さんへ、少しでも興味のあることは多少面倒でも思い切り取り組んでください。学校は「出会い」の宝庫です。新しい活躍の場や世界、全く考えの違う人とコミュニケーションをとることが自身の可能性を広げます。何より様々な楽しみを覚えるという経験は、社会人で仕事に取り組み際に様々な武器になると思います。

歯科衛生科

3年間を振り返って

森田 彩美

平成26年3月卒業
中瀬歯科医院 勤務

昨年の4月より歯科衛生士として働くようになりました。まだ慣れないことばかりで、一日の仕事が終わるとぐっすりしてしまいう毎日です。患者さん一人ひとりの症例も異なり、治療の方法も違います。短大で学んだことの応用が多くあり、今でも教科書を読み返して日々勉強を積み重ねています。それでも、患者さんから感謝の言葉をいただいたり、笑顔で帰られる姿を見ると疲れも吹き飛んでしまいます。

学生時代は、歯科という専門的なことを学ぶだけでなく、礼儀作法も学びました。患者さんとのコミュニケーションが自然にできるようになり、あのとき学んだことが実戦でも役に立つことがよく分かりました。実習1日目を毎日苦勞して仕上げたことや、国家試験の勉強を何度も復習していたことが思い出で、これや、そのことが役に立ち、今の自分自身につながっていることに実感しています。くじけそうになったときや悩んでいたときに側にいてくれた先生方や友だちは今でも大切な存在で、仕事をすることができるようになった今も感謝の「宝物」になっています。

学生時代の3年間という期間は、長いようであっという間です。その3年間で学ぶことやいろいろな出会い、かけがえのないものになるはずです。悔いのない学生生活を送って一生の宝物にしてください。

幼児教育科

人との繋がりを大切に

近澤 晴香

平成23年3月卒業
社会福祉法人安養福祉会
むつが保育園 勤務

卒業してから4年が過ぎました。学生時代は、初めて聞くことや体験することばかりでとても刺激的でした。実習や研修など大変なこともありましたが、同じ夢を持つ仲間に出会えたり、先生方の変化もあり、充実した学生生活が送れました。今思い返すと、本当に恵まれた環境の中で生活できていたことに改めて気付かれます。周りの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

現在は保育士として働き4年目となります。日々の生活の中で気付かされる事も多く、まだまだ勉強中ですが、子どもたちとともに成長しているよう頑張っています。私は子どもたちと安心して生活できるように掛けて保育しています。子どもと同じ目線に立って楽しんだり、考えたりし、子どもたちと同じ時間を共有し楽しんでいます。また保護者の方にも安心して預けていただくよう、コミュニケーションを大切に、少しでも子育てのお手伝いができるかと思っています。時には悩みや感動を話しながら、胸が熱くなることもあります。その時々子どもの表情や子どもたちの日々の成長を間近で見ることができ、この仕事に、私はとてもやりがいを感じています。

大変なことや辛いことも多くありますが、子どもたちや保護者の方、先生方等、周りの方々に助けられ楽しく保育することができています。在学生の皆さんも人との繋がりを大切に、目標に向かって頑張ってください！

音楽総合科

学生時代を振り返って

佐溝 佳奈

平成16年3月卒業
大垣女子短期大学
音楽総合科指導助手

私は卒業後研究生として研鑽を積んだ後、現在は短大女子短期大学音楽総合科の指導助手として「ウインドアンサンブル」の補助、学外からの依頼演奏打ち合わせ、管楽器リペアコースの「楽器奏法」レッスン等週3日程勤務しています。また、クラリネットアンサンブルや吹奏楽などの演奏活動の他、個人や中学校、高校の吹奏楽部指導等を行っています。

学生時代は、ウインドアンサンブルで演奏に出かける機会が多く、それまで人前で演奏する経験がありませんでした。私にとっても、数多くの曲を短い期間で仕上げなければならなかったことがとても大変であった記憶があります。今振り返ると、それらの貴重な経験が現在の演奏活動に活かされていると実感しています。また、学生としての集大成でもある卒業演奏会にたくさんの方々のおかげで出演することができたことも強く心に残っています。

今後、様々な仕事をしていく上で大変なことも数多くあるかとは思いますが、現状に満足することなく、今の自分には何ができて何を目標に考え、常に目標を持ちチャレンジする心を忘れず、色々な面でレベルアップしていけるように努力していきたいです。

保健室より

保健室の朝は、ドア越しから聞える「おはよう」挨拶し合う学生たちの元気な声が始まります。何気ない朝の光景ですが、元気に1日をスタートできる健康が充実した学生生活を送るための基盤となります。学生にとって「健康」は重要なキーワードなのです。しかし、昨年実施した健康生活調査によると、学生の生活は課題やバイトで忙しく、健康への配慮は少しくらい後回しになっているようです。この調査結果を受けて、保健室では昨年度から「ヘルスアップセミナー」と名付けた生活習慣改善を目的とした健康教室を開催しています。内容はエクササイズやカフェ形式でのディスカッションといった楽しみながら学ぶことができるものです。セミナーの認知度はまだまだ低い状況ですが、皆さんに参加してもらえようという企画を提供して、少しずつ健康への関心度を高めていけるような保健活動を行っていきたいと考えています。みなさん一度参加してみませんか？

「こんなことでもいいよ！保健室がホントに21世紀の」



デザイン美術科講師 伊藤 麻子

春——色とりどりの花が咲く華やかな季節ですね。

「雨かぬ種は生えぬ」ということわざがあります。種を蒔かなければ、花や実になるはずもなく、収穫があるはずもない。努力もせずに良い結果を期待することなど無駄だという教えます。

私たちは夢を抱き、それを追い、そしてその成果を求めます。しかし、何もしていないで、成果や結果を出すことは難しいでしょう。自然を観察していると、種がなければ芽が出ず、花は咲かず、実もならないことがわかります。時には種を蒔いても芽が出ないことだってあります。種を蒔く努力もしていないのに、愚痴や不満を言っている自分を責めていませんか？ 嘆く前に、自分の力でたくさんの種を蒔きましょ。種の蒔き方、育て方は人それぞれです。本を読む、インターネットで探そうまくいっている人に聞いてみるなど、色々な方法があります。種にも色々あります。種に色や匂い、思わぬところから芽が出てくることもあるでしょう。もし小さな芽が出てきたら、順調に育つように努力しましょう。私もグラフィックデザインの仕事やモノづくりをする中で、素材や技法、アイデアの探求はもちろんのこと、人との出会いを大切に、豊かな実り多き人生になるよう、種蒔きしていきたいと思っています。

新聞・雑誌に掲載された
本学の記事・本学のスナップ

平成26年2月～
平成27年2月

大垣市が制作、全世帯に配布

支援の大切さ呼び掛け

大垣市が制作した「支援の大切さ」をテーマにしたポスターが、市内全世帯に配布された。ポスターには、大垣市が制作した「支援の大切さ」をテーマにしたポスターが、市内全世帯に配布された。ポスターには、大垣市が制作した「支援の大切さ」をテーマにしたポスターが、市内全世帯に配布された。

平成26年2月1日 岐阜新聞

学生生活の集大成、感性キラリ

大垣女子短大、卒業式、195人集立

大垣女子短大の卒業式が、3月12日（土）に大垣市大垣公会堂で挙行了。卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。

平成26年2月10日 中日新聞

大垣女子短大、卒業式、195人集立

大垣女子短大の卒業式が、3月12日（土）に大垣市大垣公会堂で挙行了。卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。

平成26年2月12日 岐阜新聞

大垣女子短大、卒業式、195人集立

大垣女子短大の卒業式が、3月12日（土）に大垣市大垣公会堂で挙行了。卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。

平成26年2月17日 岐阜新聞

幼保の園体制を提言

大垣市が提言した「幼保の園体制」が、大垣市議会に提出された。提言には、大垣市が提言した「幼保の園体制」が、大垣市議会に提出された。提言には、大垣市が提言した「幼保の園体制」が、大垣市議会に提出された。

平成26年3月26日 中日新聞

大垣女子短大、卒業式、195人集立

大垣女子短大の卒業式が、3月12日（土）に大垣市大垣公会堂で挙行了。卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。

大垣女子短大、卒業式、195人集立

大垣女子短大の卒業式が、3月12日（土）に大垣市大垣公会堂で挙行了。卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。式には、大垣女子短大の卒業生195人が集立した。

平成26年4月 短期大学教育 第70号

入ようバグー・スマホロ

アドレス交換、大丈夫?

入ようバグー・スマホロのアドレス交換、大丈夫?の情報が掲載された。入ようバグー・スマホロのアドレス交換、大丈夫?の情報が掲載された。

平成26年5月13日 岐阜新聞

進路の音に勇気

進路の音に勇気の情報が掲載された。進路の音に勇気の情報が掲載された。

平成26年5月25日 岐阜新聞

日本酒ラベルのデザイン

最優秀賞は大垣さん

日本酒ラベルのデザインコンテストで、大垣さんが最優秀賞を受賞した。大垣さんが最優秀賞を受賞した。

平成26年6月6日 中日新聞

親子で備の健康チェック

親子で備の健康チェックの情報が掲載された。親子で備の健康チェックの情報が掲載された。

平成26年6月10日 岐阜新聞

「ママ大学」で子育て勉強中

教授らの講義で不安解消

「ママ大学」で子育て勉強中のママたちが、教授らの講義で不安を解消している。ママたちが不安を解消している。

平成26年6月30日 朝日新聞

人物画に性格や感情を

人物画に性格や感情を表現する情報が掲載された。人物画に性格や感情を表現する情報が掲載された。

平成26年6月29日 岐阜新聞

仕上げ餅きで虫歯防ごう

仕上げ餅きで虫歯を防ぐ情報が掲載された。仕上げ餅きで虫歯を防ぐ情報が掲載された。

平成26年6月29日 中日新聞

みずきトピックス mizuki topics spring 2015

topic
1

第46回 みずき祭—Brighten Quintet—開催

平成26年10月25日(土)、第46回みずき祭を開催しました。本学開学以来、多くの学生や教職員の力の結集により続いてきたみずき祭。今年のテーマは「Brighten Quintet(輝く5重奏=5学科)」。「5学科それぞれの良いところを持ち寄ろう、学生一人ひとりの魅力を磨き合おう、キラキラぴかぴかのみずき祭を実現させよう」という思いを込めました。

お子様連れや高校生の方など、約2千名の方にご来場いただきました。秋晴れの空の下、クラスやクラブが、模擬店や屋外ステージでのショーなど、それぞれに力を入った企画を実施しました。学科企画では、子どもたちの遊び場「ドキドキ☆キラキラ☆ふんわりびっくり箱」(幼児教育科)、「輝き」をテーマに40マスの絵を繋ぎ合わせた巨大壁画の展示(デザイン美術科)、「マラソンコンサート」(音楽総合科)、フッ化物塗布(歯科衛生科)、そして「ナース服体験」・「体のつくりパズル&クイズ」(看護学科)を実施しました。また同窓会によるホームカミングデーも同時に開催されました。



topic
2

第11回 こども祭—ハッピーワンダーランド—開催

平成27年1月18日(日)、幼児教育科こども祭委員26名を中心に計画から準備まで話し合いを重ね、当日を迎えました。今年度はI号館で歯科衛生科が「フッ化物塗布」、看護学科が「からだの声をきいてみよう」が行われました。音楽総合科は「参加型コンサート」をエントランスで、デザイン美術科は「ドキドキ★妖怪めりえ」を体育館で行い、みずきホールで行われた劇と共に地域の親子の皆さま600人ほどが来校され、楽しんでいただきました。また大垣共立銀行(OKB)のプロジェクトの皆さまのご協力もいただきました。アンケートでは、劇「3びきのこぶた」・体育館の遊びのコーナー・ビーズづくり(OKB)が人気でした。保育技術発表、和太鼓、器楽演奏、造形表現など将来保育者となる学生の力が結集した催しになりました。



大垣女子短期大学
Ogaki Women's College

〒503-8554 岐阜県大垣市西之川町1-109 TEL. (0584) 81-6811 (代) FAX. (0584) 81-6818 <http://www.ogaki-tandai.ac.jp>
【学科構成】幼児教育科・デザイン美術科・音楽総合科・歯科衛生科・看護学科



第三者評価

学校教育法に基づき、文部科学大臣認証評価機関により受ける認証評価。
平成24年度において認証評価を受けた結果、基準をすべて満たし、平成17年度に
続き、「適格」と認定されました。

大垣女子短期大学通信

みずき 2015 春号
No.34

発行日/平成27年3月1日
編集/広報委員会
発行/大垣女子短期大学
E-mail info@ogaki-tandai.ac.jp